

イエスは 主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '96.9.1 105



毒麦も育つ マタイ13:24-30

有馬 歳弘

山根可弐牧師はアシュラムの交わりの中で、強い印象を与えて下さいました。最初に関東アシュラムにお誘いいただいたことにもよるのでしょう。

それよりも、山根牧師はいつもノートを携えておられ、「静聴ノート」と言えるものに、与えられた聖言を記しておられました。会うと「有馬さん、今日の静聴は何でしたか」と尋ねられる。自ずと静聴に基づく会話が弾んだものです。段々とアシュラムの交わりの中へと導かれて行ったのです。

主イエス様の譬え話は、心を引きつけるものが多いのですが、その中で「毒麦」の譬え話が心に残りました（マタイ13:24-30）。「ご主人様、畑におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。どうして毒麦がはえてきたのですか」と僕たちが、驚いて尋ねています。「良い種」しか蒔かなかつた畑に毒麦が育ち始めている。ノアについて聖書は「ノアはすべて主が命じられたようにした」と記していき、ノアの言葉はひかえて、神がノアにお命じになる言葉のみが記されています。ノアは神の言を聴き、忠実に従いました。方舟を出て最初に祭壇を築いています。ところが、その後自分の子供ハムを呪う事件が起こるのです。良い種の中にどうして、毒麦が育つのでしょうか。

聖書の言葉のみが語られ、真剣に信じている教会の中に、どうして雑音が生じて来るのでしょうか。優れた指導者が、自分の弟子の中に、自分の考え通りに生きない人を見つけては、その弟子を破門したり、絶交したりして孤独になったりします。それは、外部から崩されるといよりも、多く内部から起こる雑音等によって崩れる危険にさらされているとも言えます。「良い種」の中に何故「毒麦」が。主イエスははっきりと言われます。「それは敵のしわざだ」。私たちの信仰の中にも「毒麦」は育ちます。周囲という外部の問題でなく、私の内の問題でもあるのです。「敵」に勝つお方に心を開いて聴くのみです。

隔ての中垣を除いて、イエス様だけを「主」と告白して交わるアシュラムの精神は貴いものです。主のなさり方に委ねて、神の国の交わり、真実な兄弟・姉妹の交わりを得たいと希います。

(日本キリスト教団、新宿西教会牧師)



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

説教・アシュラム創始者ジョーンズの生涯
(4) J・M・ジョーンズ

「スタンレーが雨期中に準備した五つの講解説教は徹底してキリスト教的・福音的であった。」

スタンレーはこれらの説教を、公会堂を借りて、何週間も、大部分がキリスト教徒でない人々に、地方の指導者の誰れかの司会の下で、説教するが常でした。説教が終ると、長い、せん索的な質問が行われました。彼はまた、あらゆる教会で説教をし講演をしました。これを長年にわたってしたので、遂に全国の人口五百万以上のすべての町に立ち寄るに至りました。そうしている間に、彼はすべての宗教界の指導者たち、英国人とはとより、特にガンジー、タゴール、ネールなどの外多数の人々と知り合いになりました。

講演は後に、本の形で出版されました。彼は全部で二十九冊の本を書き、その多くはベスト・セラーになりました。一九二五年に、彼の評価を

決めた「印度途上のキリスト」が最初の著作として出ました。他の著作と共に、この本は多くの国語に翻訳され、それは一九九〇年代にも続いています。彼のめい想的な本、「道」

は彼の最も独創的な著作であることは衆目の一致するところですが、彼はテルトリアヌスの「魂は本来キリスト教徒である」という洞察を新しい限界―身体全体、社会全体がキリスト教的に働くように意図されている―という見解にまで押し進めています。彼の書物が語っていることと、彼自身の宗教的、社会的発達との間には相関関係が現われています。これらの書物の印税を彼は文字通り、宣教また外のキリスト教的運動のために、使い果たしました。彼は困っている人々を助けてやみませんでした。彼の死に際し、それらの収入の残額とジョーンズ夫人からの同様の資金は、何百人ものインドの若者たちの教育を助ける奨学金となりました。彼の書物は彼に世界的名声を与えました。彼は急速に世界中から引張りだこの講演者になりました。このようにして彼は全世界的な宣教者になりました。同時にキリスト教が責任を負うべき他の側面と取り組みました。いわゆる「宗教的対話」が流行し出す以前に、彼はインドにあるすべての宗教の信徒間の円卓会議を開きま

した。彼は人間苦の問題と取り組みました。彼は何所に行っても、和解のための仲保者でした―特に、一九四一年に、終には不成功に終わった日本との戦争を妨ごうとする努力―ルーズベルト大統領とワシントン駐在日大使館の間の非公式の仲介者として―それに就いては前に言及しました。

ジョーンズは特にクリスチャン・アシュラムの創始を誇りにしていました。アシュラムとは「宗教的退修」を意味するヒンズー語です。彼はその語に洗礼を施し、彼の福音宣教に「訓練された群」の重要性という次元を加えました。一九三〇年に、彼はヒマラヤの麓にあるサトタルで彼の最初のアシュラムを創始しました。もう一つはラクナウの都市環境の中で、しばらく開かれていました。他のアシュラムは北米を横断して創設されました。それは信仰生活の深化のための一週間の退修会でした。この運動はスカンジナビアと日本に於てよく受け入れられてきました。組織的な分析、或いは霊的自叙伝が一九六八年に出版された彼の「上昇の歌」に見出されます。彼の生涯と証しに多くの側面―祈り、明け渡し、証し、社会的関心、和解などが、―しかしすべてはキリストに集中して開陳されています。

スタンレー・ジョーンズはその生涯を革命的な変化のただ中で生きのびました。彼はこのことを、英国人の支配者の優越的な態度に関連してしばしば言及しています。彼の「上昇の歌」から引用すると、彼は次のように書いています。「我々がボンベイで下船しようとしていた正にその時に耳に入った英国婦人の言い草に、その態度がよく表われています。『私たちはこの船から下りられてうれいのです。この船には労働者ばかりしか乗っていませんから』。これは一九〇七年のことでした。それから正に四十年の一九四七年に、働く人々、労働党がこの広大な帝国を民主主義国になるためにインドに引き渡したのです。(白川訳)

アシュラム生活最良の友
アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物

価300円、〒90円、年2,340円(〒とも)

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来45年続行中

東京都目黒区中央町1-21-10
日本クリスチャン・アシュラム連盟
碑文谷教会気付

◎郡山ミニ・アシュラムの報告

去る七月二十日郡山市・安積伝道所(吉田傳治師)で久しぶりに開かれ、市内より十八名出席、よく準備され、的を射た退修会であった。郡山でのアシュラム再開のめどがついたようである。八月十一日反省会をもち、今後の組織等に就いて相談する予定。▽参加者の証し

郡山教会員 太田 栄子
初めてアシュラムに出席させて頂きました。私に欠けていたみ言葉の静聴を深く論されました。聖書の中で不明の点があれば、早く楽に知ることを望み、知識を殖やすことを求めているのです。知識だけの信仰は



郡山ミニ・アシュラム 96.7.20

結実しないと思います。この度、み言葉の静聴と折り合うことにより、共に支えられて主の道を歩む喜びを感じました。日毎に信仰と祈りの生活へと導かれ、主に整えられますように願っております。

第34回関東アシュラム案内

○九月二十三日(祭)二時〜二十五日正午

○箱根仙石原 山崎製パン箱根山荘に於て

○助言者 在日大韓教会元老牧師・金 元治師

○参加費用 一八、〇〇〇円(宿泊費)

○申込 九月十日迄に碑文谷教会・関東アシュラム委員会

電話 〇三三七二二一五七八 振替口座 東京〇〇一〇〇一一 四五五八

▼関西アシュラム予告▲

十月九日(水)〜十日(木・祝) 滋賀県・大津市国際交流セミナーハウス皇子が丘荘で開催

助言者 金 元治師・金 徳成師 実行委員 清水 潔師外の委員

〈四十年の恵〉日本アシュラムの歩み、しばらく休み、(スタンレーとアパ・ルームゆかりの地を訪ねて)海老澤宣道師の旅日記を数回掲載します。(編集者)

四十年記念・特別献金者名簿

(順序不同)

◆10万円 淵江淳一 飯島庸江 飯島延浩 金 徳成 山本繁夫 関東アシュラム

◆5万円 大石嗣郎 扇町教会 古河 治 片山英昭

◆3万円 河野 修 岡田多鶴子 三井賢太郎 竹澤勝三郎・俊子 吉本美枝 菅原寅夫

◆2万円 石谷類造 海老澤宣道 海老澤須磨 大韓西成教会 同大阪教会 檜貝 幸 金氏義憲 渡部清教 新原 迪

◆1万5千円 増井裕江

◆1万円 今井 壽 近藤貞子 譜頭清子 菅野由男 谷口ふく子 佐藤やす子 井上登美 河合光治 桐生喜代 木部安来 白川鄭二 高橋俊雄 増田朝子 加藤童子 新宿西教会 吉田傳治 堀内 清 加持美映子 仲埜昭子 辻中昭一 横山義孝 川谷威郎 上島恭子 杉田常夫 島 隆三 佐藤文昭 松澤信廣 佐々木雄次 桜庭朝子 栄 英彦 淵江千代子 吉沼勢以 石神 勇 土山牧羔 坂井正栄 岡部恵次 鍋倉 勲 川野直人 今村幸文 力丸郁子

◆5千円 大柴俊和 中村よね 植草栄一 河内三男 河合澄恵 設楽不二子 岡 彦雄 村上隆三

◆3千円 高橋和歌子 河田一雄

◆2千円 山本恵太郎 吉崎彦次郎 横田笑作 阿部 納 栗本高幸

◆千五百円 井上 治

◆千円 小澤みお 廣石修一

ご献金を感謝いたします。会計 大石 収入の部 合計 二、一八四、五〇〇

特別献金(79口) 一、六三四、五〇〇 指定献金(出版費) 五五〇、〇〇〇 支出の部 合計 一、七七四、四二〇

内訳 記念出版費 五五〇、〇〇〇 マ博士夫妻交通費 三六九、五一〇 宿泊費 二八八、九一〇 謝礼 二〇〇、〇〇〇 関東地区関係支出 一三〇、〇〇〇 沖繩 九四、〇〇〇 その他の支出 一四二、〇〇〇 残余金 四一〇、〇八〇

◎唐渡 弘師 前任の河野 修師に代わり、四国地区アシュラム委員長に就任された。 住所 〒七六一 高松市田村町 一〇三三一

◆大石嗣郎師 七月精密健康診断のため、しばらく入院中であつた。

▼第一回伊那アシュラム開催▲

日時 一九九六年十月十日(祭) 午前九時三十分

場所 長野県伊那聖書教会 主題 「思い煩うな」 助言者 石神 勇理事

申込所 〒三九四 長野県岡谷市 長地 石神 勇

☎〇二六六一二八一〇八八

編集長 白川 鄭二 発行人 大石 嗣郎 定価 一部60円 千80円

《スタンレーとアバ・ルーム ゆかりの地を訪ねて(1)》

海老沢宣道

二十世紀最大の宣教師スタンレー・ジョンズ博士が信仰強化法の一つとして残したアシュラム祈祷生活運動がわが国で始められてから、四十年を経過し、また国際聖書日課アバ・ルーム日本語版を創刊してから今年で満四十五年となるので、両事業の祝賀を兼ねて、ゆかりの地を訪ね、それぞれの信仰の原点に触れ、明日への活動力を与えられたいとの願いをもつて、去る五月訪米を実行した。

第一日、五月十三日(月)夕刻、成田をU A便で出発、途中日付変更線を通過、夜半を過ぎてまた十三日の夕刻八時にワシントン空港着。バスでボルチモア市へ約一時間、ホリデイインに夜十時頃到着して宿泊。

第二日、五月十四日(火)、早朝スタンレー師の甥のレベット・ジョンズ氏がホテルに来られ、早速一同をミニバスで先祖の墓地へ案内された。スタンレーの生家を見たいと希望しておいたが、そのクラークスビルという村は、今では造成工事が進んで多くの家屋が建ち並び、往時の風情はなくなつたので、その代りだという。お陰でスタンレーの両親や祖母など、ジョンズ家代々の立ち並ぶ墓碑を拝観し、優秀な人物が多い家

系であったことを教えられた。

次に市内に戻り、フレデリク通りのメモリアル教会を訪ねる。合同メソジスト教会であるが、スタンレーが青年時代に出席していた頃、R・J・ペイツマンという伝道者が来て、神の愛による回心につき力強い証しをしたのを聞いて、彼はあの先生の持つていけるものを持ちたいと、三日間祈り続けた。彼が聖壇の下で祈る間、ミス・ローガンという教師が並んで祈ってくれた。三日目の夜、伝道説教が終わると直ちに彼は祈りの祭壇に進んで、ひざまずいた。その時、天が開け、彼の魂に、あの伝道者が持つていたものー主イエスを迎えて、喜びに躍り上つた。その時からこの恵みを全世界に、すべての人に分け与える人間に造り変えられた。この事を記念して今でもメモリアル教会と呼ばれ、スタンレーのひざまずいた祈祷台の部分を取り取つてきて、最近改築された新会堂の中央に設置されていた。

スタンレーの娘婿のJ・K・マシューズ博士夫妻の案内で、私たちも聖壇に進み、スタンレーが聖霊の満たしを受けた、その祈祷台の上にひざまずいて一人一人が深く祈りに入る幸いを経験したのである。

メモリアル教会を出て少し南に向かうとすぐ左側に、オリベット丘上

墓園があり、その中にスタンレーとメイベル夫人の墓石が並んで置かれていた。更に聖パウロ通りに向かうと、米国最初のメソジスト教会として有名なラブリーレン教会に着く。さすがに二百年前に少数の牧師たちの祈りによって開始された伝道が、百年後、壮大なバルテノン型式の円形大会堂として建設され、円天井は献堂当日の上空の星座を画いていたというが、その後、補修が行届かず、汚れたままなのは嘆かわしい限り。この教会には附属の博物館があり、米国メソジスト関係の史料と共に、わがスタンレー・ジョンズ博士の生涯に関する写真や遺品、著書、各国の新聞などが展示されており、エド・シエル博士が解説され、同市の歴史学会の婦人有志が私共のためにランチを作つて下さつたのには恐縮した。D・スミス牧師に歓待の礼を述べて辞去。

第三日、五月十五日(水)早朝ボルチモアから小型バスで、首府ワシントンに向かい、午前中は中心部のワシントン、ジェファソン、リンカーンなど有名な大統領の記念館を観光し、正午にウエスレー神学校を訪問、学長D・ルイス博士に十年振り再会、副学長D・ウイソソンの案内で校内を見学。礼拝堂と図書館とが中庭を挟んで向き合っている。

第四回クリスチャン・アシュラムセミナーの報告

六月四日、十四時、山崎製パン箱根山荘、出席者二〇名(東北・関東・中部・関西・九州)

*開会礼拝・土山牧善副理事長

*読書発表・E・S・ジョンズ著

「震われぬ国・不変の人格」

発表者・洲江千代子姉

発表に対する質疑応答と発表者の感想がのべられた。

*セミナー静聴の時、関西地区、古河

治師

*ファミリリー・アワー、座長洲江淳

一師、アシュラム運動一般の現状に就いて質疑・応答あり、今後の展開に関する見解・提案一特に信徒の立場からの積極的意見が出た。

*閉会礼拝・大石副理事長

海老沢宣道の新書

神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 円240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社

取次 日本クリスチャン・アシュラム連盟